

## 欧州で進む脱・ディーゼル車、EV シフト

### 日本で人気のモビリティ、EV がテーマの投信

先月初旬から変動を来たしはじめている世界の株式相場ですが、日本の投資信託市場では、世界的に株安が不安視される中でも海外株式の投信への資金流入が続いたようです。

海外株式投信の中で、2月前半に最も販売額が大きかったのが「モビリティ・イノベーション・ファンド」で、電気自動車や車のIT化、カーシェアリングなどに関連した世界の株式に投資するファンドです。販売額上位には「グローバル・ロボティクス・株式ファンド」、「グローバルEV関連株ファンド」と、モビリティ、ロボティクス、EVといったキーワードが並びます。

### 脱内燃機関自動車・EV化が進む欧州

ドイツの連邦行政裁判所は2月27日、環境を改善するため、自治体がディーゼル車の市街地走行を禁止するといった必要な措置を講じるべきだとする判断を示しました。

ドイツの自動車生産台数は606万台（2016年、日本自動車工業会調べ）と、中国（2,812万台）、米国（1,220万台）、日本（920万台）に次ぐ第4位の自動車生産国であり、今回の判決はドイツ国内の自動車産業へ大きな影響を与えるとともに、ディーゼル・ガソリン車から電気自動車（EV）などへのシフトを加速させるものと思われます。

【パリ市内では路上の駐車スペースにEVの充電施設が設置】



欧州内では、昨年7月、G7先進国としては初めて、フランスが2040年までに内燃機関自動車の販売禁止することを表明しました。そして、英国も同様に2040年までの販売全面禁止する計画を打ち出しました。

さらに、昨年9月には世界最大の自動車生産国である中国が、自動車メーカーに新エネルギー車（NEV）の製造・販売を義務づける規則を導入することを発表しています。

### 大手自動車メーカー各社の動き

このような世界的な脱内燃機関自動車、EV化の流れを受けて、世界の大手自動車メーカー各社の対応も加速しています。

メーカー	各社の動き
ルノー・日産連合	2022年までに新たに12車種のEVを投入。
トヨタ	2025年までにトヨタ全車種に電動車（HV、EVなど）を設定し、エンジン車だけの車種をゼロにする。 2030年に、世界販売台数における電動車を550万台以上、EV・FCVは100万台以上を目指す。
フォルクス・ワーゲン	2025年までにグループ全体で新型の電動車を80モデル発表する。 遅くとも2030年までに全地域全モデルで電動車をラインアップする。
ダイムラー	2022年までに全車種にEVを投入。
BMW	2025年までに25車種のEVを展開。うち12車種のフルEVを開発予定。
GM	2023年までに最低20車種のフルEVの販売を計画。

【昨年9月におこなわれたフランクフルト・モーターショーの様子】



**英国政府のEV支援策**

英国政府の研究資金助成機関「イノベートUK」は、イノベーション（技術革新）を目指して主に企業に研究費を助成しています。イノベートUKの助成額はこの10年間で急速に増加しており、英国政府は2016年秋、政府の研究開発費支出を2020/21年度までの4年間で計47億ポンド（約7,050億円、1ポンド=150円）も増額することを発表しています。

【EV関連のイノベートUK助成制度】

分野	内容・規模
低炭素自動車	低炭素やゼロエミッション技術の研究開発等への助成 低炭素自動車やハイブリッド自動車購入および充電ステーション設置に対する消費者向け助成 (助成規模：1億ポンド(150億円))
EV向け蓄電池	EV向け蓄電池に関するフィールドスタディや研究開発プロジェクト等への助成 (助成規模：2億4,600万ポンド(369億円))
Vehicle to Grid (V2G)	EVを電力網に接続し、電力を融通し合う仕組み(V2G)の技術開発等への助成 (助成規模：2,000万ポンド(30億円))

日本企業も、日産、日立、堀場製作所などはこのイノベートUKの助成を受けて、英国国内で研究開発をおこなっています。

**Innovate UK**

Results of Competition: Connected and Autonomous Vehicles 2 - Stream 1 CRD  
 Competition Code: 1608\_CRD1\_TRANS\_CAV2S1

Total available funding is £15m from CCAV

Note: These proposals have succeeded in the assessment stage of this competition. All are subject to grant offer and conditions being met.

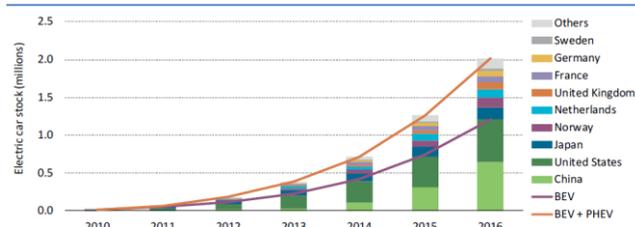
Participant organisation names	Project title	Proposed project costs	Proposed project grant
Nissan Motor Manufacturing UK Ltd	HumanDrive	£6,851,592	£3,425,796
HITACHI Europe LTD		£1,670,414	£835,207
Secured By Design Limited		£92,542	£49,525
Transport Systems Catapult		£1,346,951	£1,346,951
Cransfield University		£1,199,941	£1,199,941
University of Leeds		£1,501,199	£1,501,199
Transport Simulation Systems Ltd		£272,190	£190,526
HORIBA MIRA Ltd		£459,112	£229,556
Atkins Limited		£115,902	£57,951

【英国政府のホームページより】

**今後のEV拡大の見通し**

2016年の1年間にEVは全世界で75万台以上販売され、世界の累計台数は200万台を超えましたが、現時点では小型乗用車全体の0.2%を占めるに過ぎません。

Figure 1 • Evolution of the global electric car stock, 2010-16



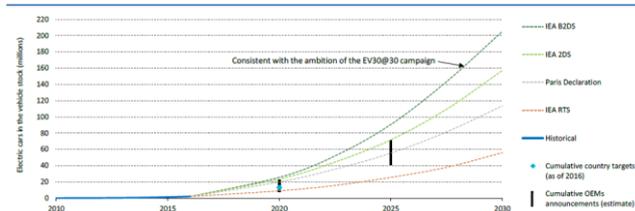
Notes: The electric car stock shown here is primarily estimated on the basis of cumulative sales since 2005. When available, stock numbers from official national statistics have been used, provided good consistency with sales evolutions.

Sources: IEA analysis based on IEA country submissions, complemented by EAFO (2017a), IHS Polk (2016), MarkLines (2017), ACEA (2017a, 2017b) and EEA (2017).

【国際エネルギー機関 (IEA) 「世界の電気自動車の見通し (2017) より】

今後のEV拡大にはさまざまな見通しがありますが、国際エネルギー機関 (IEA) が、各国別の目標やメーカーのEV導入シナリオなどを分析したところ、2020年までに900万~2,000万台、2025年までには4,000万~7,000万台に達するようです。

Figure 2 • Deployment scenarios for the stock of electric cars to 2030



現在の内燃機関自動車はエンジンをはじめ部品点数が多く、関連産業の裾野が非常に広い一方、EVはモーターの部品点数が少なく済むため、EVへのシフトは一時的には雇用への影響も懸念されています。しかしながら、フランス、英国、中国などがEVシフトへの明確な意思を示しており、100年以上続く内燃機関自動車の時代が大きな転換点を迎えているのは間違いのないでしょう。以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。